

The 39th

Passenger Cars & Motorcycles

TOKYO MOTOR SHOW 2005



News

vol.

5

平成17年10月24日

第39回東京モーターショー2005

Passenger Cars & Motorcycles
乗用車・二輪車

"Driving Tomorrow!" from Tokyo みんながココロに描いてる、くるまのすべてに新提案。

「環境と感動」の両立めざすクルマづくり



トヨタブランドの参考出品7車種、市販乗用車16車種、各種の先進技術展示物を展出して大にぎわいのトヨタブース



さらにヒトに近づいた新パーソナルモビリティ「i-swing」。

クルマと音楽のコラボレーションをより目指す「bB CONCEPT」

トヨタ自動車は前回に引き続き「エコ×エモーション：環境と感動」をテーマに、エコロジーへの配慮とクルマの走る喜び、使う楽しさを共に追求する取り組みを5つものワールドプレミア、ジャパンプレミア1モデルという迫力で世界に向け提示した（いずれも参考出品車）。

環境や安全問題などクルマを取り巻くネガティブ要素を最小限にし、操る楽しさや快適機能など人がクルマに望むことの最大化を目指すクルマづくりのビジョン「Zeronize & Maximize」。このビジョンのもとに、トヨタの持てる数々の最新技術を投入したのが燃料電池ハイブリッド車「Fine-X」だ。注目の燃料電池システムは共に自社開発のFCスタックと70Mpa（約700気圧）高圧水素タンクより構成され、実走行がすでに可能。

エクステリアは「VIBRANT CLARITY」（わくわくさと爽

やかさの両立）のデザイン哲学に基づくワンフォームシルエットの革新的パッケージ。乗降時にガルウィングが大きく開き、車外にせり出す「電動お迎えシート」や、インパネ、ドアトリムにリラクゼーション効果のある「ゆらぎ照明」を採用して、乗る人への「もてなし」を追求。全長3,860ミリメートルというイスト並のサイズでカムリ並の車内空間を実現した。

従来車では不可能だった自在な動きができるのも大きな特徴。電気モーターを4輪各々に内蔵するインホイールモーターでの4輪独立駆動、これに4輪独立操舵、大舵角ステアリングの組み合わせによって、縦列駐車が楽な「前輪／後輪回転モード」に「方向転換モード」、狭い道でもUターンが自在にできる「その場回転モード」という3つの回転モードを持たせた。また、前側後方カメラによってクルマの全周が監視できるITS技術も組み込まれている。

最先端ハイブリッド、人に近いモビリティを実現



自由自在に動き、先進の事故回避システムも備えた燃料電池ハイブリッド車の「Fine-X」



セダンとミニバンを融合させた新カテゴリモデルの「FSC」



「RAV4 CONCEPT」

THS-IIに電気式4WDを組み合わせた新世代スタイリッシュミニバンの「ESTIMA HYBRID CONCEPT」

トヨタは97年に世界に先駆けた量産ハイブリッドカー「プリウス」の発表以来、ハイブリッド技術を「21世紀のキーテクノロジー」と位置付け、03年にはハイブリッドシナジードライブをコンセプトとする新世代ハイブリッドシステム（THS-II）搭載の2代目プリウスを投入。THS-IIというのはエコとパワーの設定自由度が高く、様々なタイプのクルマに展開が可能なシステム。先のハリアーなどSUVへの搭載に続き、今回のモーターショーでミニバンへの展開を予期させてくれるのが「ESTIMA HYBRID CONCEPT」だ。

現行エスティマハイブリッドとの違いはプラットフォームを新開発し、モーターの高出力化と電源系の高電圧化などクルマ全体のエネルギーマネージメント制御を進化させた点だ。細

部では「エネルギーメーター」という新発想の計器を装備。メーターパネルに走行・空調・電気系のエネルギー消費状態を表示することによって、ガソリンが今、何に使われているかを目視できる。3列目シートを床下電動格納すると、2列目のオットマン付シートを超ロングスライドできる「スーパーラックス空間」の実現も楽しみだ。

トヨタブースの中でもとくに大人気の「i-swing」。01年の東京モーターショーに出展の「pod」、03年の「PM」、05年「愛・地球博」出展の「i-unit」に続くパーソナルモビリティだ。しかし、i-unitが個人の移動をより自由にするモビリティだったのに対して、i-swingはより小さく、より柔らかいボディで人のように自在に動き、人の生活にとけ込むことができるように進化させたのが大きな違い。i-unitをベースとしていない点が見所だ。

それは乗るというより「着る」に近いボディ感覚。言わば乗車ならぬ「着車」への進化形。目線が人と同じ高さなので、2輪走行では歩いている人とふつうに会話しながら並走できる。衝撃吸収する低反発ウレタンと布で構成されたボディ外皮は脱着・交換が可能で、まるで服を着替えるかのようなカスタマイズ仕様。2分割開閉の前面ドアと背面の三角パネルにはフルカラーのLEDディスプレイが施され、自分でインターネットからダウンロードした動・静止画を自在に表示して街中での自分らしさを表現できる。

通常の道路走行をしたい時には2輪モードから3輪モードに切替える。スティック操作に加え、ペダル操作でもドライブが可能。まるでスキーをしているかのような感覚で、旋回・加速時前傾、制動時後傾といった、人に近い姿勢変化をしてくれる。また、ユーザーのクセや好みを学習して成長していくAIコミュニケーションを内包している点も見逃せない。

グリーンフィングコラム



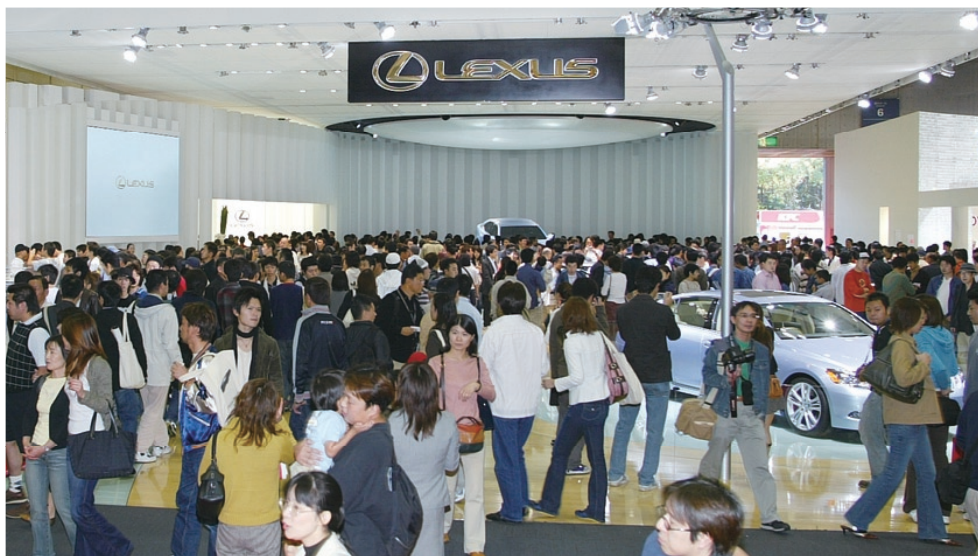
まだ花開かずとも、
その「つぼみ」を感じとって欲しい

トヨタ自動車
渡辺 捷昭 社長

出展テーマを先回に引き続き「環境と感動」としたのは、今日、クルマという商品には環境保全という社会的課題への対応が不可欠であると同時に、乗る人の心を動かすことが出来るクルマとしての魅力を追及し、それらを両立させることが必要だと認識しているからです。

私自身の夢でもある「走るほど空気がきれいになり、事故を起こすことなく、乗るほどに健康になれるクルマ」というコンセプトは、まだ、今回出展した参考出品車には「花開いている」とまでは申しませんが、その「つぼみ」のいくつかを感じとっていただけるものと思っています。

「ときめき」と「やすらぎ」で“高級の本質”を追求—— レクサスブース



おもてなしの心と高級感溢れるレクサスブース

トヨタ自動車の高級車ブランドである「レクサス」が東京モーターショーの会場でも異彩を放っている。中央ホールの半分近くをトヨタグループが占めているが、トヨタ自動車と並行してレクサスのブースが設けられた。ブースデザインは全国の主要拠点にある高級感溢れるレクサスの店構えそのもので、「おもてなしの心」を提供する洗練された接客マナーも雅（みやび）な雰囲気さを漂わせている。

「レクサス」といえば、21世紀の新しいグローバルプレミアムブランドを目指して、今年の8月末から日本市場でも本格デビューしたが、販売開始から1ヵ月で目標の約4倍の4,600台を受注するという好スタートを切った。そのパワーを加速させるための効果が絶大な東京モーターショーだけに、一般公開前

のプレスブリーフィングでは、吉田健・常務役員が「高級の本質を追い求め、心に深く刻まれる“ときめきとやすらぎ”に満ちた時間という価値観をお届けしたい」などとスピーチを行った。

展示車両は市販の「IS350」と「SC430」を含めて5台。参考出品車のうち、最も注目のマトとなっているのはメインステージにある「LF-Sh」。世界初公開したV8ハイブリッドシステムを搭載した高級セダンで、駆動力を余すことなく路面へ伝えるAWDにより安全性とシャープでしなやかなハンドリングが楽しめる。走る喜びと環境性能を両立させているのが特徴だ。また、近日中にも市販予定の「GS450h」はプレミアムセダンとして世界で初めてハイブリッドを搭載。新燃料噴射システムと高性能モーターを組み合わせることで、高加速性能と低燃費を両立させている。

「LF-A」はプレミアム2シータースポーツ。レクサスのデザインフィロソフィーであるL-finesseをベースに磨き上げたダイナミックなスタイリングがブース内でも際立っている。



「LF-Sh」はメインステージに展示



ダイナミックなスタイリングの「LF-A」

記者の目

クルマだけでなく、プロの仕事に対する感動を本国に伝えたい



ネーション・マルチメディア・グループ (タイ)
プロミン・ナムジャンスリイ記者

東京モーターショーはショー全体の運営と規模、企業別ブースの内容の充実度、至れり尽くせりのメディア対応のすべてにおいてプロフェッショナルで、その驚きと感動で頭も心も一杯だ。どここのブースに何々があったといった単なる商品紹介の記事ではなく、タイに帰ったら、そうした私自身が感じたフィーリングをそのまま国民に伝えたい。タイのモーターショーもいつの日かこんな素晴らしいものになって欲しい。会期中ずっと居たいのですが、そうもいかない、短い滞在中に日本のプロフェッショナルなやり方をしっかり見て学んで帰って、これからの自分の仕事に生かしたい。

少年少女モーターサイクル
スポーツスクール

子供も親も大興奮—初乗り体験



ヘルメット、ニーパッド、
長袖・長ズボンなど、
必要なものはすべて本
部で貸してもらえます。

お父さんが子供のバイクをリリ
ース—見事に空走に成功!



自転車の経験しか
持たない小学生た
ちが、数十分のト
レーニングで“隊
列走行”をこなす。

会期中の土日祝日、北2ゲート近くの中央休憩ゾーン特設会場で、少年少女モーターサイクルスポーツスクールが実施されている。

このスクールは、NMCA日本二輪車協会が社会貢献の一環として、日本各地で行っているもの。補助輪なしの自転車に乗れる小学生なら誰でも参加できるとあって、人気は非常に高い。

スクールの特徴は、親子参加。主役は子供と父母で、インストラクターはサポート役だ。スロットルやブレーキなどバイクの機能の説明を受けたのち、お父さん、お母さんの手助けでエンジンを使わずに走る空走をマスターする。

足をつかずに乗れるようになると、いよいよエンジンをかけてインストラクターの後について、子供が自力で走り出す。そのカルガモの親子のような光景に、見つめる親たちは一様に目を細める。

最後はパイロンで作られたミニコースを時速30キロ近くで隊列走行し、無事終了となる。ほとんどの子供はエンジン付きの乗り物を運転するのは初めてとあって、喜色満面。親子の絆も大いに深められていた。

スクールは午前・午後6回程度予定されている。人気が高いため、当日早めに予約しておく必要がある。

TOPICS
トピックス

「東京モーターショーニュース」を会場内で高速カラープリント
コニカミノルタブースの「オンデマンド・パブリッシャー C-51N」



「C-51N」で、世界各国の新聞をリアルタイムにプリント、提供

毎日、会場内で配られている「東京モーターショーニュース」(発行・日本自動車工業会)。出品メーカー展示の特色や多彩なイベントなどを、4ページにわたって来場者に日替わりメニューで紹介している。

この発行に威力を発揮しているのが、中央モールのコニカミノルタブースに置かれた「オンデマンド・パブリッシャーC-51N」。1分間でA4フルカラー51枚を高速プリントすることに加え、2つ折りのミニコミ紙や3つ折りの商品カタログから最大80ページの小冊子まで製本してしまうという優れモノだ。

コニカミノルタブースでは、全世界300社とネット契約している各国ニュースペーパーを、この「C-51N」によってリアルタイムにプリント、提供するというデモPRを行っており、海外から訪れた来場者の関心を集めている。

VIP来場 2005年10月23日(日)

ブルネイ・ダラサーラム
ダト・アダナン・ブンタール大使

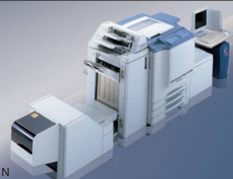
今日のイベント(予定)
2005年10月24日(月)

- * **トライアルデモンストレーション**
11:45~12:15 } フェスティバルパーク
14:20~14:50 } (西休憩ゾーン)
- * **交通安全トークショー**
12:50~13:20 } フェスティバルパーク
15:50~16:20 } (西休憩ゾーン)
- * **bay fm生放送**
13:30~14:00 } フェスティバルパーク
(西休憩ゾーン)
- * **クリーンエネルギー車同乗試乗会**
10:30~16:30 } 特設専用コース
(幕張海浜公園内 メッセ周辺公道)

※天候等の都合により予定が変更になる場合がございます。



ON DEMAND PUBLISHER C-51N



The essentials of imaging

毎分51枚 高速・高画質フルカラー出力

必要な時に必要なだけ、さまざまなニーズに柔軟に対応。

このニュースは コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C-51Nで出力しています。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
ODI事業部
TEL 03-5205-7820
Email odi-info@bj.konicaminolta.jp
URL http://www.ebook-print.com

TOKYO
MOTOR SHOW
2005

10月23日の入場者数 107,600人
入場者数累計 235,000人

東京モーターショーニュースVol.5 2005年10月24日発行
発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA